政策決定の場への女性の参画～地方議会女性議員を増やすために～

「女性が拓く政治の道」
植竹恵美香（越谷市）倉岡舞（さいたま市）
小助川美穂（吉川市）齋藤万紀子（羽生市）

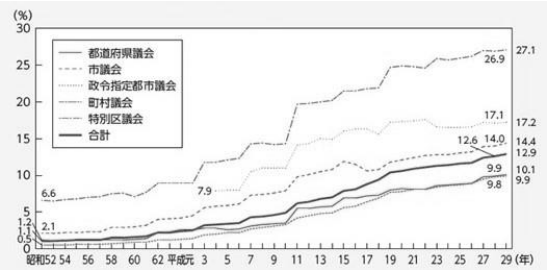
１.調査研究の背景

世界経済フォーラム（WEF）による男女格差の度合いを示す「グローバル・ジェンダー・ギャップ指数」の日本の順位は、2018 年度は 149 カ国中 110 位、政治分野は 125 位と低迷している。これは女性の政治参画が進まず、女性の閣僚や議員が少ないことが主な原因である。そんな中、2018 年５月に「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」が施行された。これはパリテ法（2000 年にフランスで制定された法律の通称、議員の男女比率を同率にする）の影響を受けたものであり、国や自治体は施策を策定し実施に努め、政党は目標を定めるなど、男女の候補者の数ができる限り均等となるよう努力することが求められている。またクオータ制（ポジティブ・アクションの一つで、一定の人数や比率を割り当てる手法）も世界的に広がりを見せており、導入国は 130 カ国に上っている。（2018 年３月現在）

男女比が偏った議会では市民の声を十分に反映することができず、議論や政策にも偏りが生じると考えられる。また議会に女性が参画することで、女性の視点や母親の声を議会に反映させることができ、暮らしやすい社会へとつながる。今後、政治分野の男女共同参画を推進し、女性議員を増やしていくことが重要である。

２.地方議会の女性議員の現状

地方議会における女性議員の割合の推移は表１の通りである。（※１）



【表１　地方議会における女性議員の割合の推移】

2017 年度の市議会の女性議員の割合は 14.4％であり､都市部で高く、地方で低い傾向にある。また全ての都道府県議会に女性議員がいる一方、３割以上の町村議会で女性議員ゼロの状況である。（2017 年 12 月末現在）

埼玉県内の市町村議会の女性議員の割合は、市区議会は 21.3％で東京都に続き２位、町村議会は 18.3％で神奈川県、大阪府に続き３位となっており、全国的にみると高い水準である。（2017 年 12 月現在）市議会の１位は本庄市の 40％（20 名中８名）だが、羽生市は女性議員がゼロであり、市町村によって大きな差がある。

３.女性議員の増加を阻む要因

女性議員の増加を阻む主な要因として以下の３点を仮定した。

① 政治への無関心…政治は男性が行うものという思い込み、日常の生活に満足していて危機感を感じない、議員と市民の距離が遠い

② 女性特有の問題…子育てとの両立が困難、家族の応援が得られない、ロールモデルが少ない

③ 政治の仕組み…男性議員に有利な選挙制度（小選挙区制）、供託金が高額

なお全国の女性地方議員約 4000 名を対象に実施したアンケート調査（※２）では以下の３点が指摘されており、私たちの仮定と同様であった。

・政治は男性のもの（固定的性別役割分担意識）がある
・議員活動と家庭生活の両立環境が整備されていない
・経済的な負担が大きい

４.フィールドワークの方法

仮定した要因を解決するために私たちにできることは何かを探るため、埼玉県内の市町村議会女性議員に焦点を当て、以下のフィールドワークを行った。

① 女性市議会議員インタビュー・アンケート（2018 年 11 月）

女性市議会議員の現状や、具体的な問題点を調査するため、埼玉県内の女性市議会議員４名に対し、以下の項目についてインタビュー・アンケートを行った。

・「選挙前」…立候補したきっかけ、周囲の反応、準備中の問題点
・「選挙期間中」…印象に残っていること、苦労したこと
・「当選後」…議員活動で大切にしていること、ロールモデル、議員活動と子育ての両立
・「女性の政治参画について」…女性議員が少ない要因、増えることのメリット、増やすために必要なこと

② 議会・委員会傍聴（2018 年９～10 月）

議会・委員会の現状を把握するため、さいたま市・羽生市・吉川市の市議会や委員会、埼玉県議会の傍聴を行った。

③　本庄市と羽生市の比較

女性議員が多い議会、少ない議会を比較検討するため、埼玉県内にて当時、市議会女性議員率１位の本庄市と、女性ゼロ議会の羽生市について調査を行った。本庄市は「NPO 法人本庄子育てネット」の主宰者、羽生市は市役所の女性政策担当者に聴き取りを行った。

④ 活動参加

埼玉県内で女性の政治参画を目的として行われている活動に参加し、活動目的や活動内容の調査を行った。

・「埼玉つながる女性の会」(2018 年 10 月)

埼玉県内の女性議員がつながり輪を広げていくことを目的に開催。

・「怒れる女子会」in 越谷市（2018 年 11 月）

政治や社会問題を語りたい女性やそれを応援する男性たちが集まり、ミーティングや勉強会を開催。

・「クオータ制を推進する会（Q の会)」(2019 年１月)

クオータ制の法制化をめざし、女性市民運動を展開。

５.フィールドワークの検証

①　女性市議会議員インタビュー・アンケート

・政治を特別なものと捉えず、ボランティアの延長や仕事の一選択として議員になった。

⇒女性が議員を目指すには、政治を身近に感じることができる環境が必要。

・選挙中に女性であるが故のヤジや差別を受けることがあった。

⇒世間には「政治は男性が行うもの」という認識が根強く残っている。

・議員活動は夜間や休日にもあり、家族や周囲の理解がないと家庭との両立が難しい。

⇒女性議員のサポート制度があると望ましい。

・議会に女性の視点は必要であると感じているが、日々の活動が多忙であり、女性議員を増やすための行動をしている女性議員は少ない。

⇒女性議員のノウハウを伝える勉強会の必要性。

②　委員会・議会傍聴

・私たち以外の傍聴者がほとんどいない。

⇒市民が議会を身近に感じていない。

・予算委員会で男性議員が子育て NPO の存在を知らず、必要性を感じていなかった。

⇒議会には多様性が必要であり、生活に密着した女性の視点がかかせない。

③　本庄市と羽生市の比較

・＜ロールモデルとなる女性議員の存在＞本庄市は６期務めている女性議員が２名おり、直近３回の選挙では立候補する女性の割合が 25%を超えている。一方、羽生市は 2003 年に１期務めて以降、女性議員ゼロの状況が続いている。

⇒ロールモデルとなる女性議員が身近にいると、女性が立候補しやすい。

・＜市民の交流活動＞本庄市は児童センターが３箇所、市民活動交流センター「はにぽんプラザ」や複合施設「アスピアこだま」もあり、市民交流が活発に行われている。一方、羽生市はコミュニティ施設「羽生市民プラザ」や、こども園や保育園に支援センターがあるが、児童センターはなく母親が気軽に集まれる場所がない。女性センター「パープル羽生」は専門職員がおらず、女性に特化したイベントやサークル活動が少ない。市民は公民館として利用しており、建物も古く、若者や母親の利用は少ない。

⇒市民の交流や母親同士の交流の中から市政への疑問、要望が生まれ、女性議員の輩出につながると考えられる。

④　活動参加

・少しのきっかけで誰もが気軽に政治に参加し、つながっていける。人と人のつながりの大切さを感じた。

⇒活動していくにはネットワーク作りが必要。

・どの会もしっかりとした信念を持って活動している。自ら問題提起をしていくことの重要性も感じた。

⇒しっかりとしたスローガンを掲げ、それに基づいた活動が必要。

６.結論と今後の課題

フィールドワークの検証結果を基に、私たちは埼玉県内の市議会女性議員を増やすためのネットワークの設立に取り組むこととした。活動概要は以下の通りとする。

【スローガン】

女性が女性を応援！チームで目指す女性の政治参画

【活動内容】

・埼玉県内の女性議員に協力を依頼し、女性議員が市町村単位ではなく、埼玉県全体のロールモデルとなることを目指す。

・女性議員が講師となり、女性議員を志す人、政治に興味がある人に対して勉強会を開催する。

・地域や NPO で活躍する女性とつながり、女性議員の立候補者を発掘し、皆で支え応援していく。

・女性議員が議員活動と家庭の両立ができるよう、家事サポートを検討する。

With You さいたまを活動拠点として、来年度より活動を開始したいと考えている。

またフィールドワークを行う中で、世間の「政治は男性が行うもの」という認識の根強さや、市民の政治への関心の低さが課題であることを感じた。今後、小学生・中学生向けの政治教育講座や、市民の議会傍聴ツアーの開催についても検討していきたい。

※１　内閣府男女共同参画局「男女共同白書 平成 30 年度版」

※２　内閣府男女共同参画局「政治分野における男女共同参画の推進に向けた地方議会議員に関する調査研究報告書」(平成 30 年３月)